

上田義彦 写真展 「いつでも夢を」

2023年7月26日（水）－ 8月13日（日）代官山ヒルサイドテラス・ヒルサイドフォーラム



1995年 福建省 ©Yoshihiko Ueda

1990年から2011年までの夢の軌跡、サントリーウーロン茶が物語る中国の記録と上田義彦の眼差し

東京代官山のアートギャラリー gallery ON THE HILL（代官山ヒルサイドテラス内）では、2023年7月26日（水）から8月13日（日）まで、サントリーウーロン茶の広告写真を手掛けた写真家の上田義彦による個展「いつでも夢を」を開催します。同時期に、同タイトルの写真集（345作品収録）が赤々舎から出版され、小山登美夫ギャラリー六本木では上田義彦展が同時開催されます。

24歳の時に「流行通信」でデビューして以来、40年もの歳月をかけて様々な被写体と向き合い続ける上田義彦。神聖な森や川、自身の家族、ポートレート、建築など、主題の多様さと表現領域の広さが上田作品の特徴です。長年、愛機であるディアドルフ8×10（エイトバイテン）の大型カメラを携えて世界中を旅し、自身の中にふと湧き上がる強い印象を写真という媒体に封じ込めてきました。また、アート作品の制作と並行して広告制作にも精力的に取り組み、広告写真という枠組みの中でも自身の表現を模索しています。若き日の上田と制作を共にしたアートディレクターは、なかなかシャッターを切らない写真家だったと撮影時のエピソードを語ります。被写体との睨めっこを交わしながら培った頑固な眼は、アートと広告の垣根をも超越した瞬間を視つめているようです。

本展覧会は、上田の代表作であり、今なお後世に語り継がれる広告写真でもあるサントリーウーロン茶の作品シリーズをご紹介します。本作はサントリーの宣伝部をはじめ、コピーライターの安藤隆氏やアートディレクターの葛西薫氏、そして、この広告にかかわった多くのスタッフの方々と共に制作されました。1990年から2011年までの約20年間、南は海南島から北はハルビンへとロケ地を求めて中国各地を巡った旅の記録であり、撮影が1990年に始まったことから、変容していく中国を写し出す歴史の記録とも言えるでしょう。

上田は当時の中国の風景を「遙か感」という言葉で表現しています。広大な地にぼんやりと霞んだ空気の層が漂う独特な眺めと、その時代を生きる人々の人間模様や美しい風景がインスピレーションとなり、サントリーウーロン茶の数々の名シーンが生み出されました。多彩な表現の中には、ロケを進める中で偶発的に遭遇した光景や情景なども含まれており、旅を重ねることで膨らんでいく、ワクワクとした上田の穏やかな喜びが写真に鮮明に焼き付けられています。

本展のタイトルは、上田が初期に撮影を手掛けはじめた頃のサントリーウーロン茶のCMで使った名曲「いつでも夢を」のタイトルをそのまま引用。昭和30年代後半の日本で流れたこの曲と同じように、どこか懐かしいサントリーウーロン茶シリーズに添えられたタイトルには、複雑で変化の激しい時代を眺める上田の想いが込められています。会場に散りばめられた物語の断片群は、ファインダーから覗く上田の眼差しがシンプルに開かれているからこそ、いつでも夢を捉えていけるのだと教えてくれるでしょう。

会場では 広告写真として 8×10カメラで撮影された作品と共に、上田がロケの合間に35mmフィルムカメラで撮影したスナップを展示販売いたします。自身で現像を行う上田は、写真そのものが持つ美しさを実験的な額装で体現させます。数十年の時を経て再び浮かび上がる、サントリーウーロン茶の作品シリーズをどうぞお楽しみください。

ウーロン茶のことを想うと、
なぜか僕は決まって冬の北京空港に降り立った時のことを思い出す。

1980年代の北京空港は今とは違い、かなり小さな空港だった。
当時そこに降り立つと暖房に使う練炭や石炭を燃やしたような香りが
いつも微かに漂っていた。そして、その香りを嗅ぐたび、
中国にまたやってきたんだという静かな喜びが、ふつふつと湧いてきた。
当時の古いロビーのガラス窓越しに、
ボーッと白く煙った、遙か遠くの水平線を見つめていると、
自然に「遙か感」という言葉が僕の頭に浮かんできて、
その度、その言葉をそっと心の何処かで呟いていた。
(写真集「いつでも夢を」序文より)

上田義彦

展覧会概要

タイトル	: 上田義彦 写真展 「いつでも夢を」
会期	: 2023年7月26日(水) - 8月13日(日)
開場時間	: 12:00-19:00 (最終日11:00-17:00)
定休日	: 月曜日
入場料	: 500円 (高校生以下無料)
会場	: 代官山ヒルサイドテラス・ヒルサイドフォーラム、gallery ON THE HILL 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町18-8 ヒルサイドテラスF棟 1F
共催	: 一般社団法人オンザヒル (gallery ON THE HILL)、上田義彦写真事務所
協賛	: サントリーホールディングス株式会社、サントリー食品インターナショナル株式会社、 株式会社サン・アド
協力	: 株式会社フレームマン
グラフィックデザイン	: 葛西薫
展示販売作品	: 写真作品、写真集
お問い合わせ	: info@galleryonthehill.com
URL	: www.galleryonthehill.com

同時開催 | 小山登美夫ギャラリー六本木 <http://tomiokoyamagallery.com/>

タイトル: 上田義彦展「いつでも夢を・永遠要憧憬」
会期: 2023年7月29日(土)-8月26日(土)11:00-19:00 [休廊日: 日月祝 | 夏季休廊日: 8月15日(月)-19日(土)]
会場: 106-0032 東京都港区六本木6-5-24 complex665 2F | 03-6434-7225
オープニングレセプション: 7月29日(土)17:00-19:00

作家プロフィール



PhotoBy_Yoshiko Kojima

上田義彦 Yoshihiko Ueda 写真家

1957年、兵庫に生まれる。写真家。多摩美術大学教授。東京ADC賞、ニューヨークADC、日本写真家協会作家賞など、国内外の様々な賞を受賞。2011年にGallery916を主宰。代表作に、『Quinault』（京都書院、1993）、『AMAGATSU』（光琳社、1995）、『at Home』（リトルモア、2006）、『Materia』（求龍堂、2012）、『A Life with Camera』（羽鳥書店、2015）、『FOREST 印象と記憶 1989-2017』（青幻舎、2018）、『68TH STREET』（ユナイテッドヴァガボンズ、2018）、『林檎の木』（赤々舎、2017）、『PORTRAIT』（田畑書店、2022）『Mäter』（赤々舎、2022）、『いつでも夢を』（赤々舎、2023）などがある。また、2021年に公開された、映画『椿の庭』は大きな反響を呼び、映画監督としての仕事も注目されている。

www.yoshihikoueda.com

展示作品

広報用画像利用規約

- 1 画像の提供は当展覧会の広報目的に限ります。
- 2 画像掲載にあたっては、必ずクレジット「©Yoshihiko Ueda」をご記載ください。
- 3 画像のトリミング、文字のせは不可とします。
- 5 掲載前に記事の内容確認をさせていただきます。事前にプレス担当までご提出ください。



1995年 福建省 ©Yoshihiko Ueda

展示作品



1992年 北京 ©Yoshihiko Ueda



1992年 北京 ©Yoshihiko Ueda

展示作品



1994年 上海 ©Yoshihiko Ueda



2002年 ハルビン ©Yoshihiko Ueda

展示作品



1998年 雲南省 ©Yoshihiko Ueda



2003年 南京 ©Yoshihiko Ueda

展示作品



1999年 上海 ©Yoshihiko Ueda



2001年 北京 ©Yoshihiko Ueda

トークイベント

上田義彦 写真展「いつでも夢を」を記念したトークイベントを開催します。ゲストにサントリーウーロン茶の広告を上田氏と共に手掛けた、コピーライターの安藤隆氏とアートディレクターの葛西薫氏をお招きします。約20年もの歳月を重ねて中国各地で行ったロケ、現地でのモデルオーデイション、広告を創り上げるプロセスなど、3人が共に過ごした笑いあり涙ありの様々な制作秘話をご対談いただきます。サントリーウーロン茶の広告制作に情熱を燃やした、クリエイティビティ溢れる道中記をお楽しみください。

- 開催日 : 2023年8月4日 (金)
時間 : 19:00 ~ 20:00 (18:30開場)
会場 : 代官山ヒルサイドテラス・ヒルサイドフォーラム
〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町18-8 ヒルサイドテラスF棟 1F
出演 : 上田義彦 (写真家)、安藤隆 (コピーライター)、葛西薫 (アートディレクター)
参加費 : 1500円 ※展示入場料込み
定員 : 80名
予約受付 : www.galleryonthehill.com

※7月11日 (火) 12:00より、gallery ON THE HILL ウェブサイトから 予約受付開始



安藤隆 Takashi Ando

コピーライター

昭和20年大阪生まれです。2、3歳で名古屋へ引っ越したので、大阪の記憶はほぼありません。面倒なので名古屋出身で通っています。ドラゴンズファンです。仕事はコピーライター、78歳のいまも一応現役です。代表作はサントリーウーロン茶です。(他は村田製作所くらい。) 葛西さんと自主プレゼンからはじめて、1983年から2012年まで30年ほども続きました。上田さんが加わって一流の仕事になりました。記憶庫に鍵をかけてしまっています。立教大学法学部卒。



葛西薫 Kaoru Kasai

アートディレクター

1949年札幌生まれ。4歳から室蘭に。室蘭栄高校を卒業して上京。文華印刷、大谷デザイン研究所を経て、安藤隆さんと同年にサン・アドに入社。代表作にサントリーウーロン茶、ユナイテッドアローズ、虎屋の長年のアートディレクション。1979年のサントリーウイスキーの新聞広告が上田義彦さんとの初仕事。映画演劇の宣伝制作、CI・サイン計画、装丁など活動は多岐。2021年個展「葛西薫展 NOSTALGIA」(ギンザグラフィック・ギャラリー)開催。著書に『図録 葛西薫1968』がある。

写真集 上田義彦「いつでも夢を」

1990年ー2011年、サントリーウーロン茶の広告写真と中国の記録



©Yoshihiko Ueda

上田義彦が撮影したサントリーウーロン茶のシリーズは、今なお広告写真の金字塔です。静謐な光、大陸の風景とともに、そこでの人々の営みと存在が写し出されたイメージは、見る人の胸に響き、忘れがたい余韻を残しました。距離を越えて、生活の美しさや瞬間の豊かさが同じようであることを、一枚一枚の写真は物語っていました。

1990年から2011年、中国が大きく変貌した時代に撮られたこのシリーズは、ロケのために、桂林、瀋陽、上海、大連など中国各地を時間をかけて巡り、その旅のなかで生まれたものです。旅で出会った人がそのまま広告の一枚に登場したり、土地の風景が写真を導いたりする在り方は、広告文化を育む当時の土壌を感じさせます。

本書は、ウーロン茶の時系列の写真とともに、上田が旅の日々においてスナップした中国の光景を収め、共通する眼差しのなか、大きな時間と空間を湛える一冊です。

赤々舎

www.akaaka.com

発行：赤々舎

page : 584 ページ

定価：13000円＋税

binding : 布製上製本

発売日：2023年8月4日

book design : 葛西薫

size : H257mm × W182mm

ISBN : 978-4-86541-158-4

プレス内覧会・レセプションのご案内

2023年7月25日 (火)

プレス内覧会：15:30 – 17:30

レセプション：18:00 – 20:00

作家への取材をご希望される方は、下記のプレス担当までアポイントをお願いします。

〈 PRESS KIT | download 〉

<https://www.dropbox.com/scl/fo/lx9vdkq2ztm4t07eg3kq0/h?dl=0&rlkey=gfx6gszqw9rci5lhq0psanb46>

〈 PRESS CONTACT 〉

展覧会に関するご取材やご掲載などご希望の際は、下記までお問い合わせください。

PR 担当：清武（一般社団法人オンザヒル） / e-mail : info@galleryonthehill.com